

公園管理システムサーバ機器賃貸借契約書

(案)

## 公園管理システムサーバ機器賃貸借契約書（案）

明石市（以下「発注者」という。）と（以下「受注者」という。）  
とは、受注者所有のサーバの賃貸借（保守を含む）に関し、次の通り契約を締結する。

### （総 則）

第1条 発注者は、本契約の条項並びに別添の「公園管理システムサーバ賃貸借契約仕様書」に従って、受注者所有のサーバ一式（以下「賃借物件」という。）の賃借を行い、受注者はこれを賃貸するものとする。

### （賃借物件の引渡完了期日及び引渡場所）

第2条 受注者は、令和9年2月28日までに発注者の指定する場所にて賃借物件の引き渡しを行うものとする。その際の運搬費は受注者負担とする。

### （賃貸借期間）

第3条 本契約は、令和9年3月1日から令和14年2月29日までとする。

### （賃貸借料）

第4条 賃借物件の賃借料は、月額 円（うち消費税額 円）とし、令和9年3月1日から起算する。ただし、月の中途において本契約の全部若しくは一部を解約したとき、又は受注者の責に帰する事由により発注者が賃借物件を使用できなかったときは、当該月分の賃借料は、その使用できなかった割合に応じ、その月の暦日数に基づき日割計算により算定した額とする。

2 前項の消費税額は、賃借料に110分の10を乗じて得た額である。

### （契約保証金）

第5条 本契約に係る契約保証金は、明石市契約規則第25条第6号に該当するため免除とする。

### （権利義務の譲渡等）

第6条 受注者は、本契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、この限りではない。

2 受注者は、業務の目的物（未完成の目的物及び業務を行う上で得られた記録等を含む。）を第三者に譲渡し、貸与し、又は質権その他の担保の目的に供してはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、この限りではない。

（再委託の禁止等）

第7条 受注者は、業務の全部を一括して、又は仕様書等において指定した主たる部分を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。

2 受注者は、業務の一部を第三者に委託し、又は請け負わせようとするときは、あらかじめ、発注者の承諾を得なければならない。

（賃貸借料の支払い）

第8条 発注者は、毎月の月額賃借料を、翌月初めに受注者から請求を受け、請求を受けた日から30日以内に受注者に支払うものとする。

（賃借物件の保守等）

第9条 受注者は、賃借物件が常に良好、適正な機能を発揮するよう、賃借物件の保守点検を行うとともに、その利用について、適正な助言、提案等を行うこと。なお、保守点検の日時等については、発注者と協議し、その指示に従うこと。

2 機器の故障などの緊急な修理又は調整を要する場合は、発注者の要請により速やかに専門技術者（メーカーにより認定された専門のサービスエンジニア）を派遣し、土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始を除く午前9時から午後5時までのうちに、発注者の業務に支障をきたすことのないよう速やかに復旧させること。

3 受注者は、賃借物件の操作等について、その利用者が電話、FAX及び電子メール等で照会したときは、速やかに回答すること。

（管理者の注意等）

第10条 発注者は、賃借物件を善良な管理者の注意をもって管理するものとする。

2 発注者又は受注者は、自己の責めに帰すべき事由により相手方に損害を与えたときは、その損害を賠償するものとし、その賠償の額は発注者及び受注者協議の上決定する。

（身分証明書の携帯及び秘密保持）

第11条 受注者は、賃借物件の保守等のため、その設置場所に立ち入るときは、必ず身分証明

書を携帯し、発注者にこれを提示しなければならない。

2 受注者は、前項の業務の処理に際して知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。本契約が終了し、又は解約された後においても同様とする。

#### (個人情報の保護)

第 12 条 受注者は、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

#### (情報セキュリティ対策の実施)

第 13 条 受注者は、明石市情報セキュリティポリシー及び情報セキュリティ実施手順を遵守し、情報セキュリティ対策を実施しなければならない。

2 受注者は、従業員に対し情報セキュリティ教育を実施しなければならない。

3 受注者は、情報セキュリティ事故が発生した場合には、速やかに発注者へ報告するとともに、その事故原因の調査等に協力しなければならない。

4 受注者は、この契約による事務を処理するにあたり、情報セキュリティ対策の実施状況を報告し、必要があれば発注者は受注者に対し改善を求めることができる。

#### (契約解除及び違約金)

第 14 条 発注者は、相手方が正当な理由なくしてこの契約に定める条項を履行しない場合には、文書をもって通知し、この契約を解除することができるものとする。

2 受注者（受注者が共同企業体であるときは、その構成員のいずれかの者。以下この号において同じ。）が次のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

(1) 本契約に違反したとき。

(2) 本契約の履行について、受注者に不正な行為があったとき。

(3) 故意又は過失により、発注者に重大な損害を与えたとき。

(4) 正当な理由なく、契約の履行を怠ったとき。

(5) 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時建設工事の請負契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 6 号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であることが認められるとき。

(6) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2

条第2号に規定する暴力団をいう。以下この条において同じ。)又は暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下この条において同じ。)が経営に実質的に関与していると認められるとき。

- (7) 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。
- (8) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
- (9) 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
- (10) 中小受託契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方が(5)から(9)までのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
- (11) 受注者が、(5)から(9)までのいずれかに該当する者を中小受託契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約の相手方としていた場合((10)に該当する場合を除く。)に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

3 前項の規定により発注者がこの契約を解除した場合において、受注者は、当該年度の支払い予定額の10分の1に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

(条件付契約解除)

第15条 賃借人は翌年度以降において、明石市の歳出予算におけるこの契約の契約金額について減額又は削除された場合は、この契約を変更又は解除するものとする。

2 前項の規定による契約の解除に伴い、受注者に損害が生じたとき、その賠償等については、発注者及び受注者協議の上定めるものとする。

(契約解除による搬出費用)

第16条 発注者が第15条によりこの契約を解除した場合において、賃貸借物件の搬出費用は受注者の負担とする。

2 前項に定める以外でこの契約が解除となった場合において、賃貸借物件の搬出費用は発注者の負担とする。

(賃貸借期間満了後)

第17条 賃貸借期間満了後は、無償回収を行い、データ消去証明書(物理破壊)の提出を行う

ものとする。

(協 議)

第 18 条 本契約に定めのない事項又は本契約書の条項について疑義が生じた場合は、明石市契約規則（平成 5 年規則第 10 号）等に定めるところによるほか、必要に応じて発注者及び受注者が協議して解決するものとする。

本契約の成立を証するため、本書 2 通を作成し、発注者及び受注者記名押印の上、各自その 1 通を保有するものとする。

令和 8 年 月 日

発注者（賃借人） 明石市中崎 1 丁目 5 番 1 号

明石市

代表者 明石市長 丸谷 聡子 ⑩

受注者（賃貸人）

⑩

## 暴力団等排除に関する特約（賃貸借）

（趣旨）

- 1 発注者及び受注者は、明石市暴力団排除条例（平成 24 年条例第 2 号。以下「条例」という。）第 6 条の規定に基づき、暴力団を利することにならないよう必要な措置を実施することとして、以下の各項のとおり合意する。

（契約からの暴力団の排除）

- 2 受注者は、明石市が行う契約からの暴力団排除に関する要綱第 2 条第 4 号に規定する暴力団等（以下「暴力団等」という。）と本契約の一部について締結する委託契約（以下「再委託契約」という。）及び資材又は原材料の購入契約その他の本契約の履行に伴い締結する契約を締結してはならない。
- 3 受注者は、再委託契約を締結する場合においては、この特約に準じた規定を当該再委託契約に定めなければならない。
- 4 受注者は、再委託契約の受注者が暴力団等であることが判明したときは、発注者に報告するとともに、その者を当該再委託契約から排除しなければならない。
- 5 受注者は、本契約の履行に伴い、暴力団等から業務の妨害その他不当な手段による要求（以下「不当介入」という。）を受けたときには、発注者に報告するとともに兵庫県明石警察署長（以下「明石警察署長」という。）に届け出て、捜査上必要な協力を行わなければならない。再委託契約の受注者が暴力団等から不当介入を受けた場合も同様とする。

（役員等に関する情報提供）

- 6 発注者は、受注者及び再委託契約の受注者が暴力団等に該当しないことを確認するため、受注者に対して、次に掲げる者（受注者及び再委託契約の受注者が個人である場合はその者を含む。以下「役員等」という。）についての名簿その他の必要な情報の提供を求めることができる。
  - (1) 役員（業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者をいい、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、受注者又は再委託契約の受注者に対し業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者と同様以上の支配力を有するものと認められる者を含む。）
  - (2) 受注者又は再委託契約の受注者がその業務に関し監督する責任を有する者（前号の役員を除く。）として使用し、又は代理人として選任している者（支店等の代表者を含む。）

- 7 発注者は、受注者から提供された情報を明石警察署長に提供することができる。

（明石警察署長から得た情報の利用）

- 8 発注者は、受注者及び再委託契約の受注者が暴力団等に該当するか否かについて、明石警察署長に照会し、回答を求めることができる。
- 9 発注者は、明石警察署長から得た情報を他の契約において第 1 項の趣旨に従い暴力団等を排除するために利用し、又は教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会、固定資産評価審査委員会、公営企業管理者、消防長、議会及び市が設立した地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 2 条第 1 号に規定する地方独立行政法人に提供することができる。

（発注者による解除）

- 10 発注者は、受注者が次に該当するときは、特別の事情がある場合を除き契約を解除するものとする。この場合においては、業務委託契約書の規定を準用する。
  - (1) 暴力団等であると判明したとき。
  - (2) 第三者に業務を行わせる場合、その第三者が暴力団等であると知りながらその契約を締結したと認められるとき。
  - (3) 第三者に業務を行わせる場合において、その第三者が暴力団等であるため、その第三者と契約しないよう、又は第三者と締結している契約を解除するよう求めたにも関わらず、その求めに従わなかったとき。

（解除に伴う措置）

- 11 前項の規定による解除に伴い、受注者に損害が生じたとしても、受注者は発注者に対してその損害を請求することはできない。

（誓約書の提出等）

- 12 受注者は、本契約の契約金額が 200 万円を超える場合には、発注者に対し、この契約の締結までに、次の事項に関しての誓約書を提出しなければならない。

- (1) 受注者が暴力団等でないこと。
  - (2) 再委託契約を締結するに当たり、暴力団等を再委託契約の受注者としないこと。
  - (3) 受注者が前2号のほか、業務委託契約書及びこの特約の各条項に違反したときには、契約の解除、違約金の請求その他の発注者が行う一切の措置について異議を述べないこと。
  - (4) 再委託契約の受注者から、この項に準じて作成した発注者に対する誓約書を再委託契約の締結後直ちに提出させて保管し、当該誓約書を業務委託契約書の規定による業務の完了までに発注者に提出すること。
  - (5) 再委託契約の受注者が誓約書を提出していないことが判明した場合には、直ちにその提出を求め、再委託契約の受注者が応じないときは、その旨を発注者に報告すること。
  - (6) 発注者が、第4号により再委託契約の受注者から提出させて保管することとした誓約書を提出するよう求めたときには、直ちに提出すること。
  - (7) 本契約の履行に伴い、暴力団等から不当介入を受けたときには、発注者に報告するとともに明石警察署長に届け出て、捜査上必要な協力を行うこと。
  - (8) 再委託契約の受注者に対し、当該再委託契約の履行に伴い暴力団等から不当介入を受けたときには、受注者に報告するとともに明石警察署長に届け出て、捜査上必要な協力を行うよう指導すること。
  - (9) 再委託契約の受注者から、暴力団等から不当介入を受けたという報告を受けたとき及び再委託契約の受注者が不当介入を受けたことを知ったときには、発注者に報告すること。
- 13 受注者は、再委託契約を締結する場合において、その契約金額（同一の者と複数の再委託契約を締結する場合には、その合計金額）が200万円を超えるときには、前項の規定に準じて当該再委託契約の受注者に誓約書を提出させ、本業務が完了した旨の通知をするときまでに当該誓約書（第3項の規定によりこの特約に準じて再委託契約に定めた規定により提出させた誓約書を含む。）を発注者に提出しなければならない。
- 14 受注者は、再委託契約の受注者が前項に規定する誓約書を提出していないことが判明した場合には、直ちにその提出を求めるものとし、再委託契約の受注者が応じないときは、その旨を発注者に報告しなければならない。
- 15 受注者は、第12項及び第13項の規定により誓約書を提出する必要がある場合であっても、発注者がその提出を求めた場合は、誓約書を提出しなければならない。  
（受注者からの協力要請）
- 16 受注者は、この特約の条項に定める事項を履行するに当たって、必要がある場合には、発注者及び明石警察署長に協力を求めることができる。

## 個人情報取扱特記事項

### (基本的事項)

第1 受注者は、個人情報(特定個人情報を含む。以下同じ。)の保護の重要性を認識し、この契約による事務を実施するに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)その他関係法令を遵守し、個人情報の取扱いを適切に行わなければならない。

### (管理体制の整備等)

第2 受注者は、この契約により取り扱う個人情報の漏えい等の防止その他の個人情報安全管理のために、個人情報の管理に対する組織体制を整備するとともに、具体的な取扱方法を規定しなければならない。

### (収集の制限)

第3 受注者は、この契約による事務を行うために個人情報を収集するときは、事務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

### (目的外利用・提供の制限)

第4 受注者は、発注者の指示がある場合を除き、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報を契約の目的以外の目的に利用し、又は発注者の承諾なしに第三者に提供してはならない。

### (安全管理措置)

第5 受注者は、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報について、個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

### (廃棄)

第6 受注者は、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報について、保有する必要がなくなったときは、確実かつ速やかに廃棄し、又は消去し、発注者に報告しなければならない。

### (秘密の保持)

第7 受注者は、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報をみだりに他人に知らせてはならない。この契約を終了し、又は解除された後においても同様とする。

### (作業場所の特定)

第8 受注者は、この契約による事務に関して個人情報を取り扱う作業場所を特定し、発注者が承諾した場合を除き、当該場所以外の場所で個人情報を取り扱ってはならない。

### (持出しの禁止)

第9 受注者は、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報を発注者の承諾なしに事業所内から持ち出してはならない。

### (複写又は複製の禁止)

第10 受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を発注者の承諾なしに複写又は複製してはならない。

### (事務従事者の明確化)

第11 受注者は、個人情報を取り扱う事務に従事する者を限定するとともに、従事者に制限があることを明確にしておかななければならない。

### (事務従事者への監督及び教育)

第12 受注者は、その事務に従事している者に対して、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知ることができた個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護について必要かつ適切な監督及び教育を行わなければならない。

### (再委託の禁止)

第13 受注者は、発注者(再委託をする場合にあっては、最初の発注者をいう。次項において同じ。)の承諾した場合を除き、この契約による事務については、自ら行い、第三者にその取扱いを委託してはならない。

(再委託に伴う措置)

第14 受注者は、発注者の承諾を得て再委託をしようとするときは、この契約と同等の内容の個人情報保護のための措置の内容を契約書等に明記するなどその安全確保の措置を明らかにしなければならない。

第15 再委託を受けた者は、この契約による事務の受注者とみなして、前2項の規定の適用を受ける。

(資料等の返還等)

第16 受注者は、この契約による事務を処理するために、発注者から提供を受け、又は受注者自らが収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等は、この契約完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(報告及び立入調査)

第17 受注者は、発注者に対し、この契約による事務を処理するための個人情報を取り扱うまでに、個人情報等の安全管理措置に関する報告書を提出しなければならない。

2 発注者は、契約による受注者の事務の執行に当たり、個人情報の取扱いその他の契約内容の遵守状況について、随時報告を求め、又は調査することができる。

(事故発生時における報告義務等)

第18 受注者は、個人情報の漏えい事案その他この契約に違反する事態が生じ、若しくは生じるおそれのあることを知ったとき、又はこれに伴う損害（第三者への損害を含む。）が発生したときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示を受け、自己の責任において処理しなければならない。

(契約解除及び損害賠償)

第19 発注者は、受注者がこの契約に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償を請求することができる。